

進捗状況の概要（1ページ以内）

平成 29 年度の補助事業に係る具体的な進捗状況は以下のとおりである。

【学内の実施体制】

大学教育再生加速委員会において平成 29 年度の実施計画を審議・策定し、アクティブ・ラーニング推進委員会で計画を実行している。また、大学 FD 委員会とも計画の共有を図り、アクティブ・ラーニング・ワークショップやルーブリック・ワークショップ、ティーチング・ポートフォリオ・ワークショップなどを共催している。

【中心となる取組】

本事業の中心となる平成 29 年度の取組は、①学修支援の強化、②日本語プレースメントテストの実施、③学修成果に関する卒業生調査の実施、④ティーチング・ポートフォリオ・ワークショップの開催、⑤学生の学修成果の確認と指導、⑥アクティブ・ラーニング・ワークショップの開催、⑦ルーブリック・ワークショップの開催、⑧アクティブ・ラーニングに関する教員調査、⑨シンポジウムの開催と事業報告書の発行、⑩外部評価委員会の開催である。

【取組の成果】

前述の①では、学修支援のための専従スタッフを配置することにより、アカデミック・スキルズ全般の指導や英語関係・会計学（簿記・BATIC）学修指導、IT 活用・操作方法指導など 1,919 件（昨年度 1,302 件）の学修指導、学生の相談・質問に対応することができた。②では、1 年生の日本語力のレベルを把握することができ、あわせて朝日新聞社の協力によるフォローアップ講座等を行い、学生の語彙・読解力の向上に資することができた。③では、就職後 3 年目を迎えた平成 26 年度の卒業生 1,570 名を対象に実施し、大学で学んだことや培ったスキル等について実感を聴取することができた。④では、新たに 5 名のメンターを養成・認定し、これまでに各学科に 1 名、計 17 名のメンターを計画通り配置することができた。⑤では、学生ポートフォリオの記載内容をもとに、個々の学生にあわせた学修指導ができた。また、担任の面談記録入力率は 51.5% で前年度に比べ 5.2% 増加した。⑥では、1 月と 2 月に開催し、専任教員 278 名中、194 名が参加（69.8%）した。2 月のワークショップは今年度から学外にも対象を広げ、29 名の学外者の参加があった。⑦は、10 月と 2 月に 2 回開催し、計 93 名が参加した。⑧においては、春学期末と秋学期末に開講されたすべての授業科目を対象に実施した。これまでに行ってきた調査結果とあわせて分析し、アクティブ・ラーニングの手法別の実施状況や学生に感じられる効果との関係を体系的に整理することができた。⑨は、3 月に『玉川大学 AP フォーラム 2017「教職課程におけるアクティブ・ラーニングと学修成果の可視化」- 学校現場における「主体的、対話的で深い学び」と教員養成段階におけるアクティブ・ラーニングを踏まえて -』として開催し、学校現場で「主体的、対話的で深い学び」を実践している事例報告が非常に有意義なものとなった。⑩では特に授業外学修時間の増加に向けて、産学連携の推進により学生が企業から求められる能力を実感することや、学生同士が切磋琢磨する環境を教員がコントロールすること、グループ学習のファシリテートに優秀な上級生をあてることなどによるモチベーションの向上も重要との意見をいただくことができた。

【補助期間終了後の継続発展に向けた取組】

本事業は本学が策定した“Tamagawa Vision 2020”と連動している取組であり、平成 32 年度以降は次の創立 100 周年に向けた“Tamagawa Vision 100”にも「教育の質保証」の一環として継続的な計画を策定する。すでに今年度からそれにつなげるための資金確保を拡充している。

【学内外への波及効果】

本事業の報告書を毎年発行し、全国の国公立大学に送付している。また取組状況を HP で定期的に発信することにより、複数の大学や企業から講演依頼を受け、他大学等への波及効果が得られていると判断している。